

2024年度 特別支援学校ねむの木 学校評価シート

自己評価における評価平均は、A(達成できている)を4点、B(おおむね達成できている)を3点、C(あまり達成できていない)を2点、D(達成できていない)を1点として点数化し、その平均値を算出したものである。

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価平均値	特記事項	評価	特記事項
1 ねむの木学園の歴史に関する理解	1-1 設立者の人物像	設立者の経歴や人物像を理解しているか。	3.06	。教職員が学園の歴史について理解を深めることのできる対策が必要と思われる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 。宮城まり子前理事長の教育方針を継承しようという気持ちが随所に感じられた。ぜひ続けてほしい。 。新入教職員だけでなく現職の教職員についても、ねむの木学園の歴史や理念を調べ、学ぶ機会を設けてほしい。 。宮城まり子前理事長亡き後、その理念伝承のプログラム化を図ってほしい。 。達成目標が重複していると考えられる項目について、次年度以降整理すること。
	1-2 ねむの木学園設立の経緯	設立者がねむの木学園の設立を決意するに至った動機及び開園に至る経緯について理解しているか。	3.09			
	1-3 学校の開設の経緯	ねむの木学園の開園後、設立者が学校の開設を決意するに至った動機について理解しているか。	3.08			
	1-4 ねむの木学園の歴史	ねむの木学園の設立から現在に至る歴史について理解しているか。	2.84			
	1-5 ねむの木村建設	ねむの木村建設に対する設立者の思いを理解しているか。	2.98			
			評価値平均	3.01		
2 学習指導計画の作成	2-1 教育理念・教育方針の理解	設立者の教育理念・教育方針を十分に理解しているか。	2.91	。設立者の教育理念・教育方針について、全教職員の理解、浸透を図る必要があると思う。 。適切な指導計画の立案を教職員に徹底させる必要があると思う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 。子どもたち一人一人の個性を生かし、多様性を重視した宮城まり子前理事長の理念によるねむの木学園独特の指導方針に沿った指導計画を作成してほしい。 。教職員によって計画の記入内容にばらつきが大きい。ねむの木学園らしさを大切にしながら、指導計画が充実するよう工夫、努力してほしい。
	2-2 教育方針に即した学習指導計画	本校の教育方針に則った学習指導計画が作成されているか。	2.63			
	2-3 こどもたちの多様性の尊重	こどもたちの個性・適性・能力・興味等に配慮し、一人一人の実態を踏まえた学習指導計画が作成されているか。	2.64			
	2-4 オープンエデュケーション	学びの連続性を意識し、学部や学年にこだわらない系統的な学習指導計画が作成されているか。	3.08			
			評価値計	2.83		

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
3 特色ある教育への取り組み	3-1 計画に則った授業	学習指導計画に則った授業を行っているか。その場その場の思い付きで授業を行っていないか。	2.73	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 指導計画を立てつつ、様子を見ながら状況に応じて授業内容を変えることはあってもよいと考える。 ◦ こどもの状況に配慮した柔軟な対応を図らなければならないと思いつつながら、実現できていない。 ◦ こどもの状況に合わせて柔軟な対応がされていると思う。 ◦ 授業の内容がマンネリ化しつつある。 ◦ 研さんが必要だと自覚しつつも実行できていない。 ◦ 日々の忙しさに追われ、その場しのぎの授業になってしまう傾向がある。 ◦ 学習したことが授業時以外の実生活にも活かせたらと考えている。 ◦ 生活支援と学校教育両面が互いに補完しあえる関係であるようにしたいと考えている。 ◦ 適正に記録をつけるようになっているが、指導内容の充実には活かしていない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◦ こどもたち一人一人に寄り添った指導に努力しており、教職員の情熱が感じられる。 ◦ 設立の趣旨が活かされており、それに沿った教育が行われていると思われる。 ◦ 教職員の研修・研さんの機会を多く与えてあげてほしい。管理者側の課題として、教職員が自ら学ぶ機会を提供することは必要。
	3-2 こどもたちの状況に配慮した授業	こどもたち一人一人の身体的・精神的状況に配慮し、柔軟な対応を図りながら授業を行っているか。	3.12			
	3-3 楽しい授業への工夫	こどもたちにとって楽しく、わかりやすい授業を行うよう工夫しているか。	3.04			
	3-4 授業研究の実施	授業の改善と指導力の向上のために、研さんに励んでいるか。	2.57			
	3-5 実生活に役立つ学力の向上	実生活に役立つ基礎的な学力を身に付けさせることを常に意識して学習指導を行っているか。	2.96			
	3-6 生活支援と学校教育の一体化	生活支援と一体となった教育が実践されるよう心掛けているか。	3.07			
	3-7 集中感覚教育	芸術性を重視し、こどもたちの感性を育てることによって集中力を高める教育が実践されているか。	3.17			
	3-8 適正な記録	授業における学習内容やこどもたちの表れなどに関し、教科日誌や個人記録など適正な記録がなされているか。	2.74			
	3-9 的確な評価	こどもたちの到達度や学習意欲、態度などについて、的確な評価が行われ、次年度における学習指導に役立てられているか。	2.76			
		評価値計	2.93			

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
4 こどもたちの心の成長に資する教育	4-1 こどもたちへの対応	こどもたちからの相談や悩みについて、親身にかつ適切に対応しているか。	2.92	<ul style="list-style-type: none"> ◦ こどもたちが気軽に教職員に相談できるような関係が作れたらと思う。 ◦ 教職員間で定期的に話し合いや引継ぎをしなければならないと思う。 ◦ 意識の低い教職員がいることは否めない。 ◦ 教職員の意見交換の場をもっと設ける必要があると思う。 ◦ 運動会を終えて教職員間のチームワークが以前よりも良くなった気がする。 ◦ こどもたちに社会のことを伝える機会が必要だと思う。 ◦ 心の教育にも力を入れている。 ◦ 自然を愛する心を授業時間の中でも伝えて行かなくてはと思う。 ◦ もっと整然とした環境で勉強させてあげたい。 ◦ 整理整頓に教職員が自らと思い取り組んでいるが、なかなか思うようにいかない。 ◦ 特定の人に対してのみでなく、すべての人に対して礼節を重んじる心を育てなければならないと思う。 ◦ その場しのぎの一般論や怒りの感情でこどもをコントロールしないよう、気を付けたい。 ◦ こどもが自ら正しい選択ができるよう見守ること、適切だと思われる表現を教えることが必要だと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 昨年の運動会を見て、こどもたちが以前よりも生き生きしており、学園全体の一体感が向上していると感じた。こどもたちはしっかり自己主張できている。そのことから評価をAとしてよいと思う。 ◦ こどもたちにも教職員にも常に笑顔が見られるような学校づくりをしてほしい。 ◦ 忙しいと教職員の連携を図ることが難しくなってくる。チームワークを強く保つ機運を醸成していったほしい。 ◦ 項目4-2は次年度以降領域7に移動したい。
	4-2 教職員間の連携	他の教職員と常に密接な連携を図り、こどもたちの日々の状態の把握に努めているか。	2.73			
	4-3 平和を希求する心の育成	人種、性別、宗教、政治的信念、その他あらゆる多様性を理解させ、人類全体の平和を希求する心を育てよう心掛けながらこどもたちに接しているか。	2.72			
	4-4 自然を愛する心の育成	自然を愛し、尊重するとともに、その脅威に対する畏怖の念を忘れさせないような指導を行っているか。	2.89			
	4-5 物を大切にすることの育成	常に整理整頓を心掛け、学校の設備・機器・教具等を大切に扱っているか。	2.77			
	4-6 義と礼節を重んじる心の育成	人としての義、礼節を重んじる心を育てよう心掛けながらこどもたちに接しているか。	3.00			
	4-7 自己主張できる強い意志の育成	他との調和を図りながら自らの考えを明確に主張することのできる強い意志を育てることを心掛けながら、こどもたちに接しているか。	2.77			
		評価値計	2.83			

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
5 安全対策の徹底	5-1 こどもたちの安全に関する意識	災害や犯罪などあらゆる脅威からこどもたちを守ることを常に意識して業務に当たっているか。	2.86	<ul style="list-style-type: none"> 。ねんね会議(保健・医療関係教職員による協議の場)を定着させ、マニュアルや災害時服薬管理への意識づけを行った。 。マニュアルの把握は必要だとわかりつつも、確認できていない。 。休日に訓練があったため参加できなかった者がある。 。訓練にはできれば参加したいが、事前に十分な打ち合わせが必要ではないか。 。教職員の防災に対する意識は低いと思われる。 。訓練には参加できていないが、ホームページや日誌の報告、マニュアルなどで確認はしている。 。機器・設備の取り扱いに不安なところはある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 。教職員の勤務シフトのため一斉訓練に出られない者がいることは理解できるが、防災対策は最重要課題であり、できるだけ多くの教職員が参加して訓練を実施してほしい。 。防災・防犯・感染症対応など、安全対策には常に全教職員が危機感をもってあたってほしい。 。危機管理マニュアルを備え置きでなく配布するなどして、少なくとも全教職員があらかじめ読んで内容を把握することを徹底してほしい。
	5-2 危機管理対応マニュアル	非常災害や事故等の発生に備え、危機管理対応マニュアルを把握しているか。	2.60			
	5-3 災害等に備えた訓練	危機管理対応マニュアルに則って行われる訓練に、積極的に参加しているか。	2.73			
	5-4 防災機器の取り扱い	医療機器を含む防災機器・設備の取り扱い方法を把握しているか。	2.42			
	5-5 危険箇所に対する迅速な対応	建物や設備等に不具合や危険な箇所を発見した際、迅速かつ適切に対応しているか。	2.81			
	5-6 感染予防対策	常に状況に応じた感染予防対策を心掛けているか。	3.33			
		評価値計	2.80			
6 地域貢献	6-1 外来者への丁寧な対応	来客や出入り業者などの対応、電話対応などにおいて、常に明るい態度で、また正しい言葉遣いで、かつ丁寧に対応しているか。	3.31	<ul style="list-style-type: none"> 。外来者にはできるだけ丁寧に対応するようにしている。 。もっとこどもたちと外とのつながりができたらと思う。 。掛川のアートスポットであること、こどもたち一人一人が芸術作家として活躍できるよう、日々考えている。 。対外活動に積極的に参加したいが、教職員の負担を減らしたい。 。もっと対外活動に関わりたいと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 。美術館・文学館・茶室・喫茶室・売店など、地域の文化向上に貢献できる機能が充実している。またそれらは地域交流においても効果的かつ有効に活用されている。 。項目6-4について、災害時に学園が地域の災害対策センター的機能を担うのは困難であり、住民もそこまで望んでいないと思われる。よってこの項目は削除してよい。
	6-2 地域に開かれた学校づくり	地域に開かれた学校づくりを意識して業務に当たっているか。	2.44			
	6-3 地域の文化向上への貢献	ねむの木学園の活動が地域の文化向上に寄与することを意識して業務に当たっているか。	2.75			
	6-4 災害時の地域貢献	地震や台風などの災害時において、学園が近隣地域の災害対策センター的機能を発揮するという心構えができているか。	2.32			

領域	項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価 平均値	特記事項	評価	特記事項
	6-5 積極的な対外活動への参加	美術展やコンサート、運動会など、様々な対外活動に、積極的に参加・協力しているか。	3.13			
		評価値計	2.83			
7 働きやすい職場づくり	7-1 あいさつの励行	子どもたちとの間に、また教職員間において、日々明るく快活なあいさつを交わしているか。	3.33	<ul style="list-style-type: none"> 年長の教職員と若手との間に意識の差があり、うまくいく時といかない時がある。 教職員の負担がうまく分散できないか考える。 時間外勤務が多い。その時間をうまく活用できればと考える。 毎日全速力で勤務にあたっており余裕がない。 ゴミを拾ったり、枯枝を片づけたり、環境整備担当職員に相談したりするなど、気を配っているつもりである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 緑地や建物内外が清々しく整備されており、至る所に壁画や作品の展示、モニュメントの設置がなされ、温かな教育環境が提供できている。 もう少し積極的に明るい挨拶をするよう心掛けてほしい。 次年度以降、本領域の名称を「チームで作る職場環境」としてはどうか。
	7-2 業務分掌の把握	教職員の業務分掌を把握し、他の教職員との連携、協力を図っているか。	2.89			
	7-3 他の教職員と協力的な業務の遂行	常に他の教職員と協力し合い、教職員個々の抱える業務負担の偏りをなくすよう努めているか。	2.70			
	7-4 効率的な業務の遂行	時間を上手に使って効率的な業務の実施ができるよう努めているか。	2.72			
	7-5 環境の美化に関する意識	校舎の内外、教室の内外の美化に心を配っているか。	2.91			
		評価値計	2.91			
総合評価			2.88			
全領域共通の特記事項 (評価委員より)		<ul style="list-style-type: none"> 今年度から自己評価に学校の教員だけでなく施設の職員も参加したことにより、たくさんの自由な発言が得られたのはよかったと思う。 評価シートの書式について、次年度以降達成目標が重複する項目を適宜整理、移動させてほしい。 達成目標の文言の表現によっては、自己評価の結果が各教職員の思いよりも厳しくなることもあると思われるので、注意したい。 				